

2024 年度（令和6年度）学校評価自己評価表

一ツ橋中学校区	校番 1 2	福山市立引野小学校
最終更新日		2024年（令和6年）10月31日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	「学びに向かう力」「課題発見・解決力」「対話する力」「自己・他者理解力」「自己効力感」
めざす子ども像の実現に向け、主体的に学ぶ取り組みを確実に進めている。授業では教職員が熱意を持ち、工夫しながら全力で取り組んでいる。学校と地域とが連携した教育活動を共に進めていきたい。	「探究的な学習」の研究を校区で推進している。『子どもの声』から『本物に触れる』『机からの脱却』を視点に持った学びづくりにより、児童生徒が自ら探究する姿が見えるようになってきた。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる力を身に付けている。
		中学校区として統一した取組等	小中合同の「自ら考え学ぶ授業」を実践するための研究授業を通して、全ての児童生徒が主体的に学ぶことができる学校をめざす。 探究的な学習の充実に向け、小中で連携して、PBL（プロジェクト型学習）の考え方を参考に、生活科及び総合的な学習の時間の単元を開発・実践する。

III 自 校

ミッション		課題発見・解決力		学びに向かう力		自己・他者理解力	
「児童が主体となる学び」を教材・児童の変容から見直し、実感的な成果や成長を児童・職員が共有できる学校をつくる。		めざす子ども像	低学年	「なぜ?」「どうして?」から問いを見出し、進んで取り組んでいる。	課題を見つけ最後までやりきろうとしている。	自分や友達の良いところを知っている。	
学校教育目標			中学年	課題解決のための方法を考え、解決のスキルを活用して、主体的に解決している。	課題を見つけ、自分で決めたことを粘り強くやり遂げている。	自分や友達のよいところを見つけ、良さや成長を互いに認め合っている。	
心豊かでたくましく 自ら考えて行動できる子どもの育成			高学年	課題解決のためのよりよい方法を考え、解決のスキルを活用して主体的に解決している。	課題を見つけ、様々なことに挑戦し、粘り強くやり遂げている。	互いの個性や成長を認め合い、学び合いを通して、自己有用感を高め挑戦しようとしている。	
現 状							
<児童> 全教育活動における課題発見・解決的な学び、自己や集団の成長を振り返る学びの充実により、自己有用感や自己肯定感が向上している。しかし、学習者として十分自立していない児童があり、少人数の活動では自分の思いを出すことはできるが、考えたことを全体へ伝える力に課題がある。 <授業> 「子どもの言葉から」を視点にし、授業づくりは広がりつつある。しかし、実を伴った学びにはつながっていない。その要因として、次のことがあげられる。 ・単元でつきたい力を意識したファシリテートが不十分 ・自立した学習者にするための手立てが不十分 今後、理論研修だけでなく、全教育活動を通して実践を通じた成果や児童の変容を共有し、教材研究を深める研修を取り入れながら、誰もが児童の成長や変容を実感する授業改善に努めていく必要がある。 授業改善を進めることが児童の「意欲や自己有用感」を育み、児童の笑顔が教師の「授業づくりの楽しさややりがい」につながる。好循環を生み出すための授業研究に取り組むことで、働きがいの向上を図る。		研究	テーマ	主体的に問いを見出し、探究活動を通して、資質・能力の向上を図る			
			内容等	児童が学びを「デザインする」探究的な授業づくり			
		めざす授業の姿	＜子どもが、問い続け、学び続け、授業づくり＞ ～「なぜ?」「どうして?」「やってみたいな」「伝えたいな」が生み出される学習方法の見直しと学びの過程の充実～ ○ 子どもが「なぜ?」「どうして?」と問い続け、探究する授業 ○ 子どもが学びをデザインする授業 (選択・発信・交流・改善する授業) ○ 子どもが「試してみたいな」「誰かに伝えたいな」と、わくわくして学びに向かう授業と教材の開発 ○ 子どもが自己の成長や変容を実感する授業				

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立引野小学校

年 目	中期経営 目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	70以上 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	70以上 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
1	自ら考え 学ぶ授業 の推進	★	見直し	探究学習を通して、児童の 思いや発想を 基盤に単元計 画を作り、資 質・能力の向 上を図る	・生活科、総合的な 学習の時間を中心 に、探究し続ける 単元の計画・実践 ・学びの質を向上さ せる教材研究・研 修(評価・改善)の 定期的実施	・児童アンケート「おもしろ い・成長を感じる」等の項 目で肯定的評価80%以上 ・年間1人1実践の研究授 業の実施 ・単元末評価問題の正答率 40%未満(低学年は5 0%未満)の児童の割合 が10%以内	・生活科、総合的な学習の時間が 「おもしろい・成長を感じる」 という項目において、肯定的評 価は91%であった。 ・単元末評価問題の正答率4 0%未満の児童は、国語5%、 算数7%であった。	3	4	・引き続き児童の思いや発 想をもとにした授業を 計画・実践していき、学 年ごとに改善点や効果 的だった手立てを考え ていく。 ・プレテストなどでつまづ きを把握し、学年間で教 材研究を進めていく。					
4	自己指 導能力を 高める教 育活動の推進		継続	HIKINO5 や 学校行事・児 童会行事等 を通して自己 指導能力と共 感的人間関係 を育む	・児童が内容を決め て取り組む HIKINO5 ・児童の発想を活か した異年齢集団の 活動の実施	・HIKINO5強化月間で自 己選択項目の達成率8 0%以上 ・行事等の異学年交流での 振り返りに自他の良さが 書ける児童80%以上	・児童会考案の取組を行ったこ とで、主体的に生活態度を改 めようとする様子が見られ た。児童会による挨拶運動の 達成率86% ・異学年交流で自他の良さが書 ける児童99%	3	4	・児童主体となる行動 を進めたことで目標 は達成できた。引き続 き、児童主体となる取 組を進めたい。					
4	子ども主 体の健康・ 体力づく りの推進		継続	体力向上の自 発的取り組み を通して、意 欲向上と体力 ・健康づく りを推進する	・運動を楽しむことを 目的とした児童主体 のエンジョイ運動ウ ィーク開催 ・自分に合った目標設 定をし、体力向上を 図る持久走・縄跳び の取組の実施	・年2回のエンジョイ運動 ウィーク実施 ・持久走・縄跳びの取組で、 自己目標の達成率が7 0%以上。	・児童主体の取組により、 参加人数が多く、楽し んで運動に取組むことが 出来た。 ・エンジョイ運動ウィ ークによる達成率82%	3	3	・持久走大会や縄跳び の取組みでは、昨年度 のことを想起させ、自 分に合った目標を設定 する。					
1	働き方改 革の推進 と教育の 質の向上		見直し	働きやすさと やりがいを高 める取組を進 める	・部会等でのボトム アップを活かした 業務改善 ・教材研究の時間確 保と交流による内 容の充実	・教師のアンケート「や りがいい」「認められ ている実感」「挑戦す る」で肯定的評価80%以上 ・勤務外時間月45未満	・「やりがい」78.6%、「認め られている」64.3%、「挑 戦する」57.1%。 ・勤務時間は平均33時間 であり、45時間を超えた 教職員は教頭1名。	2	2	・校長による環境づくりが 不十分である。ボトムア ップの方法の見直しや、 個に合った環境づくり等 の改善を校長が行う。 ・勤務外時間の適正管理を 継続していく。					

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難しく、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。